

# 湘南慶育病院

症 例 概 要 患者氏名：KA様 (50代後半男性)

病名：頸髄損傷

入院期間：2020年3月上旬～2020年8月上旬

経過：2020年1月中旬、工作中（居酒屋店長）に階段から転落受傷し、救急搬送。頸髄損傷と診断され、その他、頭部挫傷、右鎖骨遠位端骨折、左母指末節骨関節内骨折、腰椎横突起骨折を認めた。2月中旬にC4/5椎弓形成術施行し、3月上旬に当院回復期リハビリテーション病棟に転院。四肢麻痺を認め、ADLは全介助。排尿排便はバルーン管理、オムツ使用。希望は「復職し、店の手伝いをしたい」とのことであった。そのため、自宅退院、復職に向け、多職種と連携をとりながら介入を行い、退院時には、身辺動作は自立、屋内歩行はフリーハンド自立、屋外歩行はロフトランド杖を使って見守り、排尿排便はトイレ自立し、自宅へ退院となり、手伝い程度ではあるが復職も果たした。

## 内 容

### 【症例紹介】

入院時、四肢麻痺により寝返り・端座位保持も困難で、時間で体位交換を行っていた。排尿排便はバルーン管理・オムツを使用。食事は嚥下機能は保たれているものの全介助。車椅子への移乗は3人介助で実施、疲労感により車椅子離床は30分が限界であった。その他、すべてのADLで全介助。ご本人の希望は「店の手伝いをしたい」とのことであった。復職を目指し、耐久性の向上、トイレ動作自立、上下肢運動機能向上が求められ、チームアプローチが必須であった。

### 【チームアプローチ】

チームカンファレンスの結果、目標を「トイレ動作自立、屋内歩行自立、お店でのドリンク作りが可能」とした。具体的には①Nsでは、入院早期から車椅子移乗を行い、車椅子離床時間の延長についてリスクを配慮しながら行った。また、トイレでの排泄も積極的に誘導した。②OTでは身辺動作の自立、ドリンク作りを目指し、両上肢の機能訓練を中心に行った。③PTでは屋内歩行の自立を目指し、装具や歩行補助具を使い、立位、歩行訓練を中心に行った。病棟、リハ職種間で密にコミュニケーションをとり、情報共有をこまめに行った。

## 【症例の変化】

1か月後、車椅子離床時間も大幅に延長し、リハビリの間は車椅子乗車が可能となった。耐久性の向上により、積極的なリハビリを開始することが可能となった。病棟では、2人介助により車椅子へ移乗し、トイレ動作も全介助だが、トイレ誘導を開始した。2か月後、車椅子への移乗、トイレへの車椅子移動が自立した。しかし下衣操作と清拭に一部介助が要するため、排泄前後でナースコールを要した。歩行練習は短下肢装具と歩行器で行った。3か月後、ロフトランド杖でトイレまでの歩行、トイレ内動作も自立した。ドリンク作りは左上肢の機能低下により、水をこぼす場面がみられた。4か月後、屋内歩行、セルフケアが自立し、目標であるドリンク作りもミスなく可能となった。